

令和８年度 第１回 城陽市環境審議会 議事録

日時	令和８年８月１７日（月） 午後２時３０分～４時３０分
場所	城陽市役所本庁舎２階 第１会議室
議題	①令和７年度環境測定結果の報告について ②第３次城陽市環境基本計画の策定について
出席者	委員 新川会長、中川副会長、中原委員、安村委員、弘本委員、田浦委員、山岡委員、小谷委員
	行政 (事務局) 上羽市民環境部長、藤林市民環境部次長、木村環境課長、藪内環境課環境係長、太田主任

＜質疑等の概要＞

（以下、会長発言を「会」、副会長発言を「副会」、委員発言を「委」、事務局発言を「事」とする。）

①令和７年度環境測定結果の報告について

事務局より説明。

会) ただいま令和７年度環境測定結果について事務局より報告を受けました。この議題につきまして、ご質問、ご意見等いただければと思います。よろしくお願いいたします。

副会) 河川のＢＯＤ値として平均値を記載されているかと思いますが、平均値とする必要はあるのでしょうか。データとして平均してしまうことにより、見えなくなるものもあるかと思うので、各季の測定値を記載しても良いのではないのでしょうか。記載方法の工夫を検討いただければと思います。

事) 過去に上流、下流それぞれで採水していた時期があったことや、年に４回採水していた経過があり、全て記載すると煩雑となるため平均値としていました。ただし、現在は年に２回の採水としているため、平均値とせずに各季の測定値を記載する等の検討を行います。

副会) 季節により採水地点を上流又は下流へ変更している場合もあるのではないのでしょうか。

事) 原則、下流で採水することとしておりますが、河川流量や河川工事の関係で、上流で採水しているケースもあります。

副会) データを基に傾向等の分析を実施するにあたっては、場所、時期を統一する必要があります。そのような点も含めて、記載方法について検討いただければと思います。

会) できる限り測定地点、測定日時が分かる形で、データ整理の方法を検討いただければと思います。

副会) 降雨と測定結果等の相関を確認する目的で、雨量データを集計いただいているかと思いますが、色々な相関分析方法がある中で、どのような分析方法を検討されているか教えていただければと思います。

事) 今回のデータは過去1年分のみとなりますので、5から10年程度の過去データを活用し、経年変化との相関について分析を進めていきたいと考えております。

会) 分析により、経年変化が河川水質や地下水質にどのような影響を及ぼしているか分かるかもしれませんので、分析を進めていただければと思います。

会) その他ご意見はございますか。

それでは、令和7年度環境測定結果については以上とします。

②第3次城陽市環境基本計画の策定について

事務局より説明。

会) ただいま第3次城陽市環境基本計画の策定について事務局より報告を受けました。この議題につきまして、ご質問、ご意見等いただければと思います。よろしくお願いいたします。

委) 計画策定の趣旨の中で、市環境基本条例に基づき策定とあり、国の第6次環境基本計画に準じてとありますが、第6次環境基本計画は第5次から変革している部分が相当あります。そうすると、市の計画の作り方や考え方にも改編が必要になってくる印象がありますが、どのようなお考えでしょうか。最初のフレームの作り方としてどのように意識されているかお伺いできればと思います。

事) 現時点で固まった方向性があるわけではないですが、サーキュラーエコノミーやウェルビーイングに触れていきたいと考えております。

委) 地域計画を作成されたり、まちづくり計画との調和を考慮しておられたり、すり合わせしやすい素材をお持ちですので、上手く個性を出せるように意識していかれると、城陽市らしい計画にバージョンアップしていけるのかなと思います。

会) 現状把握や課題に対する組み立て方等について検討いただければと思います。最近、環境省で地域循環共生圏の話や、トータルでの地域の暮らしの捉え直しの動きがあったり、サーキュラーエコノミーに関心があったりしますので、その辺りも含めて検討いただければと思います。

委) 新名神高速道路やアウトレットの建設遅延が発生していますが、まちづくりの進行状況と計画との連携状況はいかがでしょうか。

事) 新名神高速道路開通後のまちづくりやビジョンについてはまだ途上ですが、関係部署と調整をしながら、計画への反映について検討を進めていきたいと思っています。

委) アウトレットができると、近隣の方は水関係を気にされるかと思っています。水は河川と関連してくる部分がありますし、開通時期によって計画等に変動があるかと思っています。5年後の計画見直しが重要になってくるかと思っていますので、連携についてよろしくお願いします。

会) 新名神高速道路は大規模な構築物になりますので、水脈等への影響が考えられます。この辺りについても、今後の計画の中で対応ができるように進めていく必要があります。また、交通量の変化等について環境影響を考える必要が出てくるかもしれませんので、今後について、計画の中で考える余地を含めておく必要があると思います。よろしくお願いします。

委) 本計画策定の委託業者が決定されたとのことですが、委託される業務の範囲や、委託業者決定までの経緯について教えていただければと思います。

事) 業者につきましては、プロポーザル方式にて公募を行い、プレゼンテーション審査を基に決定しました。業務内容につきましては、原案の作成やアンケート調査の実施等を委託することになります。

委) スケジュールについては、提示いただいた内容で妥当かとは思いますが、脱炭素に向けた大きな転換が必要な中で、委託業者が理解され、良い方向に向かっていくためには、市民・事業者アンケート、団体ヒアリング、ワーキングに手間暇をかけ工夫される必要があると思います。また、第1章の基本的事項の計画の対象とする環境の範囲について、第1次計画の際は基礎自治体ならではの市民密着による分野分けをされていたかと思いますが、この内容について変更しても良いかと思っています。脱炭素へは大きな転換が必要ですので、その辺りを上手く切り分けた形にしても良いのではないかと感じました。

会) スケジュールですと、今年度の秋に集中した作業が発生することになりますが、市民・事業者の方のご理解、そこでの考え方についてしっかりと図りながら進めることができるかが重要かと思います。また、計画対象として脱炭素、生物多様性等が入り込んでくる中で、基本的な枠組みや考え方として、社会的・地域的に課題になっている内容を対象にしていけるようにご検討いただければと思います。

副会) 第2章の環境の現状と課題につきまして、課題を評価できるのかが気になります。市の概況の部分で、気候変動といった城陽市の状況について記載できるかと思いますので、計画の中で自分事として市の現況を理解いただいたうえ、それに対する城陽市の考え方や対策が分かるような工夫をしていただければと思います。また、気候変動により河川の氾濫等が城陽市でも起こり得るので、その辺りの情報提供や対策について、他部署と連携の上で盛り込んでいただければと思います。併せて、城陽市の熱中症患者の発生状況等、気候変動と医療との関係といった現状の分析を行い情報提示いただくとともに、その対策についても考えていけるような計画にしていいただければと思います。

委) 他部署と連携し、現場で抱えている問題を計画に反映させていくことが大切になってくると思います。庁内でも推進本部会議等を実施されているとのことですが、この中での議論の密度を高めていただくことが重要だと思います。

副会) 環境課だけでなく、横断的に取り組み、現場の方の意見を反映させていくことが大切だと思います。

会) 気候対策は治水や危機管理に目が行きがちですが、環境問題でもあります。計画において、環境分野として何ができるのか、他部署との連携による対応策はあるかといった適応計画にも直結する話でもあります。気温の上昇は、保健・福祉分野の問題でもあります。一方で重大な環境問題でもあります。双方での連携等について位置づけていくことも計画での役割の一つかと感じます。総合計画の一端を本計画が担っているという位置づけを考えていく必要があると思います。また、ヨーロッパでは山火事が頻発しており日本でも発生しています。このような問題を含めて事務局にてご検討いただければと思います。

委) 第1章の計画策定の趣旨に記載のある、市のまちづくり計画との調和について興味があります。私の所属する事業所でこれまでに実施してきた事業の中に、環境に特化した事業が少なかったです。根拠をもって課題を解決するために事業を立ち上げますが、環境に関わる城陽市の課題がこれまでに資料化されていなかったのではないかと思います。そこで今回の計画への要望となりますが、まちづくりの調和との兼ね合いで、城陽市の

地域の魅力とセットで考えることができると良いのではないかと思います。それを行政だけで実施していくのは難しいかと思いますが、例えば、民間団体が環境のまちづくりの一環としてアクションを起こしやすいような計画にしていいただければと思います。

会) 単なる市民参加ではなく、市民・事業者の皆さんと共に、より良い城陽市の環境をそれぞれの活動を通じて作っていくという趣旨もあろうかと思いますが。まちづくり全体との関係も整理しながら、計画について検討を進めていただければと思います。

委) 関係団体ヒアリングの調査対象案を見ていると、女性の視点が抜けてしまうのではないかと感じています。代表者の方となると、男性となる団体が大半ではないかと感じています。子育てをする母親の視点というのも大切ですし、女性の意見をくみ取っていただけるような団体を選出できないかと思いました。また、家庭にアンケート調査が届いたとして、中々女性の意見は入りにくいのではないかと感じました。環境には女性の行動が重要だと感じるので、女性に働きかけられればと思います。

事) 関係団体に対し、活躍されている女性もヒアリングに参加いただけるよう働きかけるといった検討をさせていただきたいと思います。

委) 第1次計画のアンケート調査に関わった際、回答率が高かった記憶があります。城陽市民の方々の意識が高いことが分かったと同時に、丁寧な説明をしていたからこそ回答率が高かったかと思います。昨今は回答率が低い現状があると思いますので、工夫が必要かと思います。Web回答ができるというのは一つのメリットだと思います。また、ヒアリングの対象者につきまして、防災の関係団体について加えた方が良いかと思います。ワーキングにおきましては、PS会議等のこれまでの経緯もあり、積み重ねの強みを生かしていると感じますが、気候市民会議方式で無作為に抽出した市民の方々に参加していただき、気候変動や生物多様性等についての基本的な情報を共有した上で意見をいただき、計画や施策に反映する手法が広がりつつあります。これにより、市民の方々の意識が変わり、計画の実践への想いが強くなるといった効果が考えられます。今回の計画において、気候市民会議を開催するのは難しいかもしれませんが、そのような要素を計画に少し取り入れたり、計画策定後に実施したりしても良いのではないかと思います。市民の方々の意識付けのためにも、ワーキング、ヒアリング、アンケート全てにおいて、このような考え方を取り入れていただければと思います。

会) 世界的には、無作為抽出による平均的な市民の代表の方々を集め、勉強いただいた上でより良いアイデアを提案いただき、施策に取り込んでいく手法が広まってきております。また、日本国内でもこの手法を取り入れているところもありますので、参考にしな

がら、ワーキングや市民公募の工夫について考えていただければと思います。今から気候市民会議を開催するのは難しいかもしれませんが、参考としていただければと思います。

副会) ヒアリングの対象団体について、企業だけでなく、連合自治会等、ごみ問題や環境問題に取り組んでおられる団体の意見も参考になるかと思うので、ご検討をお願いできればと思います。また、ヒアリングの意見だけでは一つの側面しか見られませんが、問題解決においては横断的な意見を聴取できるような工夫が必要となります。環境課だけではなく、他部署連携といった対策により問題解決の糸口が見つかるのではないかと思います。

委) 現状のヒアリング案では、対象団体が実際に感じていることを引き出しにくいのではないかと思います。ヒアリングでは、問題解決に向けて何をしていくかの議論に持つていく必要があります。地域の産物がどのような環境基盤から生まれており、それを守るためにはどのような活動が必要かといった部分を引き出せるようなヒアリングが必要かと思います。

会) ヒアリングにおいて、事業者や団体の活動において城陽市の環境と密接に関わっている部分を深堀し、その中から環境問題を考えていく手がかりや、より良い環境対策の方向性を発見するようなヒアリングをしていただきたいといったご意見かと思うので、その辺りも検討いただければと思います。

副会) 高齢化が進む中で、高齢者に優しいまちづくりが出来ているか気になっています。例えば、歩道環境であったり、高齢者の方が散策できるような安全な環境であったり、高齢者の方々が住みよい環境だと思ってもらえるようなまちづくりを進めていくヒントになるようなものを引き出せば良いかと思うので、高齢者の意見も取り入れていただければと思います。

委) 傾斜がかかっている道が多く、歩行時に気を付けなければいけないと感じています。

会) 高齢者や障害のある方、子供たちといった、あらゆる年代、あらゆる特性に応じたより良い環境の在り方は市民生活に直結する部分も大きいので、計画の特徴になるかもしれません。また、高齢化が進む中で、孤立や独居が増えている状況になっていると思いますし、高齢になると気温や体調への感受性が低下してきますので、気候変動に対して一人ひとりがどのような適応をすべきかについても市の重要テーマになると思います。福祉、保健分野等との調整も必要となりますが、高齢者や障害のある方、子供たちへの適応・対応について反映させることで、城陽市らしい計画になるかと思いました。

ので、ご検討いただければと思います。

委) 学校との関係は何か考えていらっしゃいますか。環境教育は重要テーマになってきますし、学校での遮熱対策も大きな課題になってきていますので、もう少し環境教育等の記載があっても良いのではないかと思います。

会) 各校での環境活動を積極的に進めておられるのは存じ上げておりますが、そのような活動を計画でどのように扱っていくのか、教えていただければと思います。

事) どのような対応になるかは未定ですが、今後検討していきたいと考えております。

会) 場合によっては、第1章の計画の基本的事項の中に環境教育が入ってきても良いかと思っておりますので、ご検討ください。

委) D X化の中で、デジタル技術やオープンデータを自分事として感じるための環境の見える化の観点から、市民参加を考えていく際のツールとして実装に向けた取り組みを行い、データの活用や見せ方の工夫について考えていけば良いかと思いました。

会) 城陽市でもD X化を進めていらっしゃると思いますが、アンケート一つを取っても、オンライン調査が進んできていますし、説明しやすい・回答しやすい工夫といった部分もあります。また、環境モニタリングにおいてもリモートセンシングといった技術が進んでおりますし、環境監視や環境保全に重要な役割を果たす側面もあります。環境についてのPRをするといった側面に限らず、市民の理解を高め、環境の現状をより多くの方に的確に知っていただき、環境施策を進めていくためのデータセットの用意をするといったD X化を活用できる側面があると思いますので、計画への反映について検討いただければと思います。

委) 城陽市としての3 R活動の具体版があって欲しいと思います。リサイクルは様々な場所で実施されていますが、リユース、リデュースについての具体的な動きが城陽市版としてあって欲しいと感じています。

会) 廃棄物について市の計画はあると思いますが、サーキュラーエコノミーは重要項目となってくると思いますので、資源化や減量化についての意見があっても良いのではないかと思います。

会) 様々な意見をいただきましたので、事務局にて整理いただき、今後のスケジュールや計画の構成、アンケート、ヒアリングやワーキングの進め方や内容について対応いただけ

ればと思います。今後の計画づくりの中で考えるべき意見を色々いただきました。城陽市らしいものや、市民生活や経済活動等の全方位に関わるような視点が計画に必要なとの意見もいただいたかと思います。市民生活における一人ひとりの安心・安全から快適な暮らし、ウェルビーイングといったところもしっかりと考えて進めていただければと思います。

会) その他ご意見はございますか。

それでは、第3次城陽市環境基本計画の策定については以上とします。

会) それでは本日の会議は、以上で終了させていただきます。

真摯な議論をありがとうございました。

以上